

【第1回 千代川の今後を考える住民説明会 意見要旨】

□日時：平成18年8月10日 19:00～20:30

□場所：県民文化会館 第2会議室

項目	意見
流下断面の確保	行徳～古海区間は、狭窄区間であり、拡幅する必要がある。
堰の改築	円通寺の大口堰は、斜め堰であり、右岸側に水勢が集中し危険な状態にある。その上流は土砂が堆積して樹木が繁茂し危険である。また、稚アユの遡上を著しく阻害している。改修の必要がある。昔は直角の堰で問題はなかった。
護岸整備	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協前の災害復旧工事の護岸は、他地域の御影石を利用しているが、殿ダムの水郷地点の天然石を利用してはどうか。 ・大きな瀬替えは土のうで行ったが、その撤去など工事後の処理に問題がある。
洪水の阻害	千代川の鉄道橋は、橋脚の影響で洪水時に阻害となっている。橋桁も低い。
森林の保全	安全な流下のため、拡幅、堤防の築堤などの河川工事だけでなく、森林を育成して保水力を高めることが長期的にも治水、利水、環境にメリットがあり、そういう方法をお願いしたい。
森林の保水力	鳥取県の国有林の林野面積は多いが、戦後、スーパ林道のため、ブナを伐採し、杉や檜を植林したため、保水力が低下した。水質も悪化した。
整備の優先順位	千代川は危険な箇所がたくさんあるが、整備の優先順位は合理性をもって決定していただきたい。
水辺の国勢調査	<ul style="list-style-type: none"> ・国勢調査によると、回遊魚の遡上の障害となる堰は少ないとあるが、アユ資源回復調査業務報告では、河床への砂泥の沈積でアユ生息阻害があるとなっている。 ・水辺の環境整備は、生態系、自然の摂理を考えて欲しい。千代川のアユは、アユ河川になっていたが、今は面影がない。
産卵河床の劣化	<ul style="list-style-type: none"> ・源太橋下流において、鳥取市の水道管を埋設しているが、蛇籠形式のため、砂利が固まり産卵、ふ化が困難となっている。工作物の許可をなぜ行なったか。
整備方式	<ul style="list-style-type: none"> ・治水工事を行う場合は、水生生物を保護できる形で進めていただきたい。 ・魚の減少は農薬も原因の一つであるが、取水工事も一因であり、良好な生息環境の保全のために専門家の意見も参考にしていきたい。
生息環境	護岸に石を利用することは良いが、河床をならすことは良くない。
河川敷公園	道の駅の裏側に設置した河川敷公園は見通しが悪く、利用が少ない。
水利用	山城川および大井手川流域の受益面積は過去より30%程度減少しているが、水利権は変わっていない。変更すべきである。
特別水利、発電所	最近の保水力の低下などを考慮して、用瀬発電所、竹市発電所など特別水利は見直す時期ではないか。半永久的ではない。
浸水区域の制限	洪水時の浸水区域について、建築制限など行政間で調整していただきたい。
洪水時の補償	洪水時の浸水補償は、地域全体でカバーする制度はできないか
補助金制度	水辺で子供たちが遊べるような環境作りを考えているが、補助金に関する情報をいただきたい。
懇談会	懇談会は情報公開で行っていただきたい。